

東京農業大学 拓友会ニュース

第38号・2022年9月30日発行

発行所 **東京農業大学拓友会**

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

TEL.03-5477-2918 FAX.03-5477-2947

e-mail : takuyu@nodai.ac.jp

<https://www.nodai.ac.jp/academics/int/int/takuyu/>

拓友会総会について

今年度の収穫祭は、抽選予約制による入構制限が設けられる予定のため、第64期拓友会総会の対面での開催は見合わせることに致します。総会で予定している報告内容については、今後、拓友会ホームページ(<https://www.nodai.ac.jp/academics/int/int/takuyu/>)に掲載致します。

お問い合わせ先

E-mail:katsul0@nodai.ac.jp(東京農業大学国際農業開発学科 中曽根 勝重)

Tel:03-5477-2918(東京農業大学国際食料情報学部 事務室)

卒業生の活躍

国際協力を仕事にして

株式会社 国際開発センター 経済開発部 主任研究員 **八木 泰子 (開発39期)**

私は、高校生の時に交換留学でアメリカのペンシルベニア州で1年間学び、近所の農家さんのお手伝いをしていたことがきっかけで、青年海外協力隊に興味を持ち、東京農業大学を受験しました。在学中は、熱帯作物学研究室に所属し、多くの先生方、先輩、同期、後輩に囲まれ、非常に充実した4年間を過ごすことが出来ました。卒業して24年経った今でも、こうして繋がりがあることが、本当に嬉しい限りです。たまたま研究室で休んでいる際に、開発コンサルタント会社でアルバイトを募集していると紹介され、卒業後そのまま就職してしまったので、青年海外協力隊に応募することはありませんでしたが、思い描いていた国際協力の仕事には携わることが出来ているので、今から振り返ってみると縁とは不思議なものだなと感じます。

1998年に国際農業開発学科を卒業し、日本工営

株式会社国際事業部農業開発部にて数年勤務した後、板垣教授の指導の下、国際農業開発学専攻博士前期課程を修了しました。そのまま国際協力の世界に戻ることも考えましたが、もう少し自分には実践が必要だと思い、IT会社やマーケティング会社にて経験を積み、その後、農商工連携コーディネーターとして独立し、国内の食品メーカーや、農業法人と商品開発・販促等のコンサルティングを行って来ました。2012年に国際協力の仕事に戻り、2015年より株式会社国際開発センターにて、主任研究員として勤務しています。国際開発センターは、1971年に財団法人として設立された国際協力分野専門の総合的なシンクタンクですが、私は主に、農業・農村開発分野の専門家として開発途上国に行き、現地の省庁と連携して、様々なプロジェクトに従事しています。特にカンボジアは縁が深く、2012年から約10年間、

行ったり来たりしています。カンボジア国「女性の経済的エンパワメントのためのジェンダー主流化プロジェクト」では、女性の経済的エンパワメントの担当として、養鶏・野菜栽培・手工芸品の製造を行っている村の女性を対象にカウンターパートである女性省の職員と共に研修を実施したり、「養蚕業振興に向けた国産シルクの高付加価値化における普及・実証・ビジネス化事業」では、王立農業大学とカンボジアゴールデンシルクのワーキンググループを設置し、ワークショップを実施したり、シルクプロテインの抽出・分析を行っています。本年4月からは、ガーナ国市場志向型農村生活改善プロジェクトが新たにスタートし、栄養生活改善の担当として従事しています。ガーナと言えば、中曽根先生!ということで、外部有識者として入っていただいております。途上国での仕事は、特にアフリカ諸国は、安全面も不安なところが多く、なかなか思うようにプロジェクトが進まなかったり、現地で雇用しているスタッフが問題を起こしたり、苦労は絶えません。それでも、農作物の生産量が増えたり、生活が少し豊かになったり、子どもたちが学校に行けるようになったなど、話を聞くと苦労が報われます。2020年及び2021年は、COVID-19の世界的なパンデミックで海外出張はすべてなくなり、オンラインでプロジェクトを進めるというこれまでにな

い経験をしましたが、やはり遠隔での仕事は限界があると感じました。特に村での活動は、報告書だけでは状況を正確に把握することは難しく、今年に入り、出張ができるようになってホッとしています。

近年の国際協力は、専門が細分化され、求められるスキルも多岐に渡るので、自分の専門だけではまったく役に立たないことがあります。私も農業をベースに、農産加工、農産物マーケティング、バリューチェーン、農村開発、ジェンダー、栄養・生活改善と徐々にフィールドを増やしてきました。これからも飽くなき探求心を忘れず、日々学び、実務に活かして行ければと思っています。

プライベートでは、現在、夫と住んでいる相模原市緑区(旧津久井郡の中山間エリア)を拠点に、「SMAK共創型地域振興協議会」を立ち上げ、活動を開始しています。事業の目的は、観光産業を少しでも盛り上げて、関係人口を増やすきっかけづくりをすることです。国際協力の仕事での経験を活かして、地域に住んでいる子供たちが、将来戻ってきたくような場所に出来たら嬉しいなと思っています。同地域には、水質の綺麗な川があり、5つあるダム湖は、神奈川県民の貴重な水源となっていますが、特に、宮ヶ瀬湖は景観が素晴らしいので、学生の皆さんにも遊びにいらしていただけると嬉しいです。



養鶏の飼料に関する
実習(カンボジア)



野菜栽培
パイロットサイト(カンボジア)



シルクプロテインの
抽出実験(カンボジア)



野菜農家への
インタビュー調査(ガーナ)

住まい作りのトータルプランナー
宅地建物取引業 千葉県知事免許(11)第6298号

 南房商事株式会社

代表取締役 藤井 勝政(拓殖1期)

〒297-0029 千葉県茂原市高師57番地
電話 0475(23)3251(代表)

地域一番の品質 花と緑
TABLE GARDEN CENTER 契約農家直送だからいつでも新鮮!!

テーブルガーデンセンター

TEL 045-935-4187(代)
〒226-0023 横浜市緑区小山町 611-3

代表取締役社長 篠原 敬一(拓殖20期)

農水省での挑戦6年

農林水産省 農産局 果樹・茶グループ
吉村 真里菜(開発58期)

農林水産省に入省し、6年目となりました。これまで4つの部署を経験し、現在は農産局果樹・茶グループで薬用作物の生産振興を担当しています。

私は、開発途上国の農村を知り、世界に繋がる仕事をすることを志し、国際農業開発学科58期として入学しました。しかし、委員会活動で国内の農村地域に行ってみると、国内にも沢山の魅力があると同時に、後継者がいないなどのよく聞く課題を目の当たりにしました。都会育ちの私には大きな衝撃で、国内の農業に関心を持つきっかけになりました。就職活動が迫る中、たまたま参加したイベントで農学職公務員と話すと、農村地域の課題に向き合う仕事ができるのではと感じ、公務員を目指すことにしました。

初めての勤務地は、岡山県にある中国四国農政局でした。米・麦・大豆などの担当者へ業務を振り分ける部署と市町村や生産者と話し、現場と共に農業を考える部署に配属されました。在籍中には、倉敷市真備町等が甚大な被害を受けた西日本豪雨が発生し、岡山駅から3kmほどの私の宿舎でも、近くの河川は越水ギリギリ、遠くの化学工場の爆発音が聞こえる状況で、被害にあった方々はどれほど怖かったかと想像を絶するものでした。災害対応の業務では、堤防が決壊して桃の樹が土に埋まった方や土砂が流れてブドウ棚が壊れた方へ支援説明などを行いました。収穫間近の作物が一気に奪われた中、もう一度桃を植えるか考え、支援を受ける手続きをする生産者の心配、不安、安堵が伴う顔は言葉では表せないものでした。災

害時は、国の支援事業だけでなく県事業など様々なものが出ることも初めて知り、ビニールハウスが壊れたらこの事業、樹木を新たに植える場合はこの事業など支援を受ける人の視点で内容を理解し、迅速に伝えることが災害現場では重要であると学びました。

3年目には、東京霞ヶ関で世界農業遺産・日本農業遺産の審査事務や情報発信業務を3年間担当しました。農業遺産は、伝統的な農林水産業を営む地域を文化や景観なども含めて一体的なシステムとして認定するものです。石川県の白米千枚田やNHK朝ドラで舞台にもなった揚浜塩田などの「能登の里山里海」、佐渡島の「トキと共生する佐渡の里山」など国内には世界農業遺産と日本農業遺産を併せて30地域あります。

世界農業遺産は国連食糧農業機関(FAO)が認定する制度で、タンザニアのアグロフォレストリーシステムやイランのカナート灌漑システムなど全世界に67地域あります。国際会議や認定を目指す途上国から研修生を受け入れる事業に関わるなど、世界の農業に繋がりを持てたことは開発学科卒業の縁だろうと思います。

また、農業遺産はそれぞれユニークですが知らない人多すぎると感じ、省公式YouTubeチャンネル「BUZZMAFF」で「農業遺産で太鼓たたき隊」を結成しました。国内の農業遺産を紹介するため、鮎と人に繋がりがあがる長良川で行われる郡上踊りの歌詞に鮎が登場するので唄ってみたり、島根県の

まちに彩りを、人の心に潤いを



ユーストマ シャインホワイト



株式会社 ムラカミ シード
MURAKAMI SEED CO.,LTD

本 社

〒309-1738 茨城県笠間市大田町341
TEL 0296-77-0354 FAX 0296-77-1295
E-mail: info@murakami-seed.com
<http://www.murakami-seed.com>



ビオラ きいろももか

ムラカミシード | 〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵九ノ割5986
水戸研究農場 | TEL 029-259-6332 FAX 029-259-6226

ガーデンショップ | 〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵九ノ割5986
花みどり | TEL 029-259-6332 FAX 029-259-6226

代表取締役会長 村上典男(拓殖23期) 村上 登(拓殖26期) 村上 忠義(拓殖29期)

たたら製鉄跡地で栄養が無い地を耕し、今では出雲そばや仁多米を生み出す地になった歴史をミュージカル風に発信するなど「公務員らしくない」をモットーに取り組みました。公務員が法被を着て唄うことが本当に良いのか葛藤しましたが、「歴史を知って驚いた。観光で立ち寄りたい。」などのコメントをいただき、動画ひとつで人々の行動に繋がる意義ある取り組みだったと思います。様々な方に協力や出演いただき、地元の温かさや熱い心に私自身が一番心を動かされた貴重な経験でした。ここで得た表現力と繋がりを大切にしたいです。

本年4月からは、薬用作物の生産振興を担当しています。生薬の原料となる薬用作物は約8割を中国産が占めるので、国産を増やすことが課題です。聞き慣れない作物が多く、日常的に食されるシソ(薬用作物名はソヨウ)や観賞用の花でもあるシャクヤク、量が違えば毒物にもなるトリカブトなど、200を超える作物が担当です。種類が多いからこそ、作物の情報や栽培方法など、生産者が安心して取り組めるような環境を出来るだけ増やすことがミッションだと思っています。また、薬用作物の有用成分の分析方法を知る際、在学中に農業環境科学研究室で静岡県産の在来種茶の成分分析をしていたことで分析機器のイメージを持てたことは、今の仕事に繋がって

いると感じるこの頃です。

結びに、学生時代でお世話になった中西康博教授をはじめ、当時院生として様々な疑問を投げかけていただいた檜谷昂助教とは、卒業後にも農業遺産になり得る地域を議論するなど、目をかけていただいています。私にとって研究室は今でも発見の場であり、学生時代の思考に原点回帰できる大変貴重でありがたい場所です。また、社会人になってからお会いする開発学科卒業生の方も多く、食・農業関係の仕事、海外で戦っている先輩や同期も沢山おり、いつでも連絡が取れる開発コミュニティは凄いなのだと感じます。

最後に学生の皆さんへ、社会に出ると思っていたよりも自分で考えることが多く、思った通りにいかないこともあります。学生生活で得た繋がりや経験、研究などは、卒業した後も自分の大きな力になると思います。ぜひ、色々なことに挑戦しながら楽しんでください。



BUZZMAFF:YouTubeにて農業遺産で太鼓たたき隊を結成しました。ぜひご覧ください!



薬用作物:薬用作物キキョウのは場です。根を利用します。

2021年度 東京農業大学国際農業開発学科卒業論文 拓友会賞

プロテア属種子に内生する菌類の研究

熱帯作物保護学研究室 山田 未悠
指導教員 本橋 慶一

農作物を含む植物体内には、多くの菌類が生息していることが明らかとなっている。これらの菌類は内生菌(endophyte)と呼称され、その定義は研究者により異なるものの、発病前の植物病原菌も含まれている場合もある。この内生菌は植物体内では普遍的に存在しているものと知られ、その存在は1800年代にまで遡る。近年の研究では、この内生菌のなかには宿主植物に耐虫性や耐病性

を付与するものが明らかとなり、新たな生物防除資材として大きな期待が寄せられている。一方で、多くの研究者が内生菌に関する再定義を幾度となく行われてきたため、その言葉の意味は混乱したまま現在に至っており、これらの研究対象は僅かな樹木と農作物に限られているのが現状である。

本研究は、これまで内生菌の研究でほとんど事例のない花卉植物であるヤマモガシ科プロテア属

に着目し、未利用資源となっている生物防除資材の探索を目的として、内生菌の有無および植物体内における内生菌の垂直伝播に関する基礎的な研究を試みたものである。

本研究では、南アフリカ共和国から取り寄せた4種のヤマモガシ科プロテア属の種子を用いて実験が行われた。供試植物は*Protea cynaroides*、*P. eximia*、*P. magnifica*、*P. neriifolia*の4種である。卒業論文は4章の構成で、大きな成果は以下の2つである。1. 4種のプロテア属種子内には、いずれからも内生菌は認められないことを明らかにした。2. 生育させた苗4種から、合計245菌株を確立し、いずれの種およびそれらの部位から分離された菌株は、主に4種の菌類で構成された。

受賞者の言葉

この度は、私の令和3年度国際農業開発学科卒業論文に対し拓友会賞を頂いたことを大変光栄に思っております。熱帯作物保護学研究室の先生方、先輩、同期、後輩には大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

私は「プロテア属種子に内生する菌類の研究」という題目で卒業論文を執筆しました。プロテア属は非常に美しい花を咲かせる植物で、切花やドライフラワーなどのフラワーアレンジメントでとても人気な花です。しかし、それらの研究はほとんど行われておらず未知の部分が多く残されています。そのため、世界中で人気なプロテア属に有効に働きかける菌類を発見し、今後の研究の手助けになればと思います

本研究における新たな知見は、プロテア属内の無菌となっている種子から、少なくとも発芽後2ヶ月以内のうちに葉、茎および根に、特定の菌類が複数の菌類防御機構をすり抜けて植物体体内に侵入するという点を明らかにした点である。これまで、イネ科をモデルとした種子から苗への内生菌の垂直伝播の事例は明らかとされてきたが、野外から植物体内に取り込むことを明らかにした新たな事例であると考えられた。

本卒業論文は基礎的な研究であるものの、プロテア属内の未利用資源となっている内生菌の役割の解明につながる大きな成果をとして、高く評価できる。

山田 未悠

卒業論文のテーマとしました。本研究では、プロテア属に内生する菌類の研究の第一歩として、6種類のプロテア属を用い種子と植物体に対する菌類の有無を明らかにする事を目的とし研究を行いました。具体的には、種子から胚乳を取り出し素寒天培地で培養し菌糸の成長の有無を確認しました。植物体では、根、茎、葉に分けそれぞれ5mm角に切断し、種子と同様に培養し菌糸の成長を確認しました。菌糸の成長が確認できた後、オートミール培地に移植し同じ特徴を持つ菌糸でグルーピングを行いました。研究中は、植物の管理や細かな作業など大変なこともありましたが、生き物を相手にする研究だったため生物に対する感謝の気持ちを改めて感じる事ができ



農大市場

株式会社メルカード東京農大



〒156-8502
 東京都世田谷区桜丘1-1-1
 東京農業大学16号館2階
 TEL : 03-5477-2250
 FAX : 03-5477-2251
 Web : <http://ichiban.co.jp>

ました。また、プロテア属は山火事をきっかけとし発芽する植物のため、スモークペーパーを使用するという特殊な播種を体験することができました。そして、播種から発芽後まで自分で植物の世話をすることで一株一株への愛着も湧き、現在も家で育成しており日々、彼らの成長を間近で感じ嬉しく思います。

私は8月の中旬からオーストラリアに1年間留学し

ます。卒業論文のテーマとは異なる勉強を行いますが、オーストラリアはプロテア属の原産地でもあるため、機会があれば現地の植物を見に行き観察したいと思います。

最後に、拓友会賞を受賞でき国際農業開発学科の卒業生として本当に光栄です。これからも精進していきます。本当にありがとうございました。

宮古諸島におけるハマササゲ (*Vigna marina*) の分布および生理生態的特性の評価

熱帯作物学研究室 瀧澤 莉紗
指導教員 菊野 日出彦

この度、私の指導した学生の瀧澤さんが拓友会賞を受賞したこと指導教員として大変嬉しく感じている。簡単ではあるがここに瀧澤さんの受賞研究について紹介させて頂きたい。

ササゲ属はアズキなどが栽培化ないし半栽培化された9種を含め約100種類以上で構成されており、野生種の多様性に優れている。中でもハマササゲは日本の南西諸島を含む熱帯亜熱帯地域の沿岸部で生育でき、植物体内に塩分を蓄積できることからササゲ属近縁野生種の中で最も高い耐塩性を持つ。本研究では、沖縄や宮古島における未利用遺伝資源の保存 (in/ex situ) と利活用を目的とし、宮古諸島に自生するハマササゲの分布および生態を台風による攪乱前後で調査した。

宮古諸島において台風による攪乱前後での分布および生態調査を夏季・秋季・冬季の3回に分けて調査を行った。また、現地におけるハマササゲの認識調査を含む簡単な聞き取り調査も実施した。宮古

諸島の沿岸部のほぼ全域でハマササゲの生育を確認したが、カルスト地形の多い下地島や干潟、海食崖、湿地、護岸工事の施された海浜では生育し難いことが示唆された。台風後では、一部を除いて生育の減退および着莢と開花の減少が見られ、着莢は宮古島東部、開花は来間島で有意に減少した。これらの結果と宮古諸島の気候から、ハマササゲの生育と開花および着莢には高潮の影響が大きく関与していることを示した。また、台風後は生息地の土壌pHが上昇するがハマササゲは生育可能であること、一方、ECは減少する傾向にあること認めた。萼片や莖、未熟莢に赤い色素を持つハマササゲ系統が今回の調査で初めて発見され、採種した種子には多様性が見られた。本研究の成果は貴重な報告であるため、3月の熱帯農業学会で本人による発表を行った。

本研究を遂行するあたり、瀧澤さんは宮古島の厳しい自然環境とコロナ禍の中、ほぼ全ての海浜を



株式会社東京アグリビジネス

TOKYO AGRIBUSINESS CO., LTD.
緑地防除管理・請負メンテナンス・資材販売

代表取締役社長 野瀬 忠
(昭和52年 拓殖18期)

〒252-0302 神奈川県相模原市南区上鶴間2-7-7

TEL 042 (744) 6237

FAX 042 (744) 6295

農業生産法人 (株)ライフオン

樋口 稔

(拓殖10期)

〒059-0272 北海道伊達市北黄金町 119-47

〒181-0004 東京都三鷹市新川 3-15-12

Tel: 0422-48-8976

Mobile: 090-3203-4950

地道に探索した。夏場の海浜での徒歩による探索はかなりの体力と忍耐を必要とした。また、調査はハマササゲばかりではなく、共生する植物や食害する昆虫など多岐に渡って観察し、丹念に同定を行ったことは評価に値する。一方で、遺伝資源の探索や保全といった視点から、利活用という社会科学的な視点とし

て聞き取り調査を行い、未利用遺伝資源の地域での将来的な利用といった課題についても提示している。瀧澤さんは、4月から国際的な農薬会社へ入社した。この卒論研究に取り組んだ経験は現在の彼女の仕事の中で生かされていると聞いた。教員冥利につける話である。

受賞者の言葉

この度、令和三年度国際農業開発学科卒業論文におきまして、拓友会賞を受賞できましたことを心から嬉しく思っています。論文作成にあたって多大なるご協力を賜りました宮古亜熱帯農場の菊野教授、熱帯作物学研究室の皆様、評価してくださいました諸先生方に、この場をお借りして感謝申し上げます。また、調査実施にあたりお世話になりました宮古亜熱帯農場職員の皆様、そして1年の大半を共に宮古島で過ごした先輩・同期にも改めて御礼申し上げます。

私は「宮古諸島におけるハマササゲ(*Vigna marina*)の分布および生理生態的特性の評価」という題目で卒業論文を執筆しました。途上国におけるタンパク質供給の重要性に関心を持つ中、熱帯の海浜に生息できるマメ科植物の存在を知り、耐塩性をもつ植物の利用に興味を抱きました。また、人生において何度も執筆するか分からない論文なら、思い切って冒険のようなテーマにしようと思い、研究室において前例のないハマササゲの研究を始めました。眩いほどに輝く青い海と白い砂浜に背を向け、水着姿の観光客からの視線を感じつつも地べたを

瀧澤 莉紗

這いまわり、時には人が立ち入った形跡がないような海岸を何時間も歩き、舐め回すように植物を観察したことは、一生忘れられない思い出です。生理生態や分布だけでなく、未利用遺伝資源の利活用など自然科学、社会科学の両面から物事を考える貴重な機会を得ました。挑戦と失敗を連続した日々で、ハマササゲに関して未解明な部分もありましたが、無事に書き上げることができ、さらには賞を頂けて大変光栄に思っています。

現在は農薬メーカーに勤め、病害虫や雑草の防除で、農作物の品質確保と収穫量の最大化を目指しています。時に脅威と捉えられてしまう農薬ですが、高温多湿で病害虫が多く雑草が繁茂する日本において、高品質な農産物を効率よく安定的に生産し供給するためには不可欠なものです。将来は国内外問わず、農薬や肥料の適切な使用方法を説明することで、誤使用による健康被害や環境汚染を無くし、食糧生産性の向上に寄与するために、世界のどこかで貢献できる人間になれるよう日々努力してまいります。

ふれあいの旅を演出する **(株)アルファインテル**

代表取締役: **佐藤 貞茂** (拓殖15期)

電話: 03-5473-0541
FAX: 03-5473-0540
www.alfainter.co.jp
info@alfainter.co.jp

〒105-0003
東京都港区西新橋1-20-10 西新橋エクセルビル7階
平日 9:30~18:30 土曜日 9:30~12:00 日・祝日は休み

観光庁長官登録旅行業1835号
IATA(国際航空運送協会)公認代理店
社団法人海外ツアーオペレーター協会正会員





東京都知事登録旅行業第3-5792号

KIX

キックス・エアー・チケット
株式会社 キックス

代表取締役 **塩満 仁**

〒187-0003
東京都小平市花小金井南町2-17-2-603
Tel 042-458-1180 Fax 042-458-1180
携帯 090-1761-0970
E-mail shiometu@bird.ocn.ne.jp
E-mail info@kix-j.co.jp

<http://www.kixairticket.com>

第62期 会計収支決算

(令和2年10月1日～令和3年9月30日)

一般会計

収入の部	予算	決算	差異
1. 会費	1,520,000	870,000	▲ 650,000
卒業生	1,520,000	840,000	▲ 680,000
既卒者	0	30,000	30,000
2. 事業	140,000	0	▲ 140,000
ニュース広告	140,000	0	▲ 140,000
行事等収入	0	0	0
3. 寄付金等雑収入	10,000	21,136	11,136
4. 前年度繰越	658,889	658,889	0
合計	2,328,889	1,550,025	▲ 778,864

支出の部	予算	決算	差異
1. 事業支出	630,000	417,724	▲ 212,276
総会費	0	0	0
新入会員歓迎会費	0	0	0
名簿整備	100,000	60,000	▲ 40,000
ニュース発行	300,000	304,919	4,919
拓友会賞	50,000	22,255	▲ 27,745
在校生への補助	180,000	30,550	▲ 149,450
2. 管理費	950,000	338,622	▲ 611,378
会議費	60,000	0	▲ 60,000
印刷費	10,000	0	▲ 10,000
交通費	30,000	0	▲ 30,000
通信費	600,000	301,209	▲ 298,791
消耗品費	100,000	753	▲ 99,247
雑給費	100,000	3,000	▲ 97,000
雑費	50,000	33,660	▲ 16,340
3. 特別会計積立金	400,000	400,000	0
4. 予備費	348,889	0	▲ 348,889
5. 次年度繰越金		393,679	393,679
合計	2,328,889	1,550,025	▲ 778,864

特別会計

収入の部	予算	決算	差異
1. 前年度繰越	2,725,008	2,725,008	0
2. 一般会計より繰入	400,000	400,000	0
3. 雑収入	50	26	▲ 24
合計	3,125,058	3,125,034	▲ 24

支出の部	予算	決算	差異
1. 正代関大開昇進お祝い金	100,000	100,000	0
2. 次年度繰越金	3,025,058	3,025,034	
合計	3,125,058	3,125,034	▲ 24

第63期 会計収支予算

(令和3年10月1日～令和4年9月30日)

一般会計

収入の部	第62期	第63期	差異
1. 会費	1,520,000	820,000	▲ 700,000
卒業生	1,520,000	820,000	▲ 700,000
既卒者	0	0	0
2. 事業	140,000	100,000	▲ 40,000
ニュース広告	140,000	100,000	▲ 40,000
行事等収入	0	0	0
3. 寄付金等雑収入	10,000	10,000	0
4. 前年度繰越	658,889	393,679	▲ 265,210
合計	2,328,889	1,323,679	▲ 1,005,210

支出の部	第62期	第63期	差異
1. 事業支出	630,000	330,000	▲ 300,000
総会費	0	0	0
新入会員歓迎会費	0	0	0
名簿整備	100,000	0	▲ 100,000
ニュース発行	300,000	100,000	▲ 200,000
拓友会賞	50,000	50,000	0
在校生への補助	180,000	180,000	0
2. 管理費	950,000	270,000	▲ 680,000
会議費	60,000	40,000	▲ 20,000
印刷費	10,000	10,000	0
交通費	30,000	20,000	▲ 10,000
通信費	600,000	50,000	▲ 550,000
消耗品費	100,000	50,000	▲ 50,000
雑給費	100,000	50,000	▲ 50,000
雑費	50,000	50,000	0
3. 特別会計積立金	400,000	200,000	▲ 200,000
4. 予備費	348,889	523,679	174,790
合計	2,328,889	1,323,679	▲ 1,005,210

特別会計

収入の部	第62期	第63期	差異
1. 前年度繰越	2,725,008	3,025,034	300,026
2. 一般会計より繰入	400,000	200,000	▲ 200,000
3. 雑収入	50	50	0
合計	3,125,058	3,225,084	100,026

支出の部	第62期	第63期	差異
1. 正代関大開昇進お祝い金	100,000		-100,000
2. 次年度繰越金	3,025,058	3,225,084	200,026
合計	3,125,058	3,225,084	100,026

2007年から国際農業開発学科を志望する中高生向けに学科を分かりやすく紹介するホームページ (<https://www.nodai.ac.jp/academics/int/int/>) を公開しました。

海外実習や国内(学内・学外)実習、教員・学生の調査の様子、研究の様子について学部生・院生・教員からの投稿記事を随時掲載中。

国際協力を志すご子弟や教え子の進学先を考えていらっしゃる方、是非一度アクセスを。

開発学科の一員として

健康科学研究室

曾根 良太

2022年4月より国際農業開発学科の助教に着任いたしました曾根良太と申します。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。国際食料情報学部教養分野の教員として、健康科学研究室として活動させていただいております。教職課程の選択必修科目であるスポーツ・レクリエーションの授業を中心に、国際農業開発学科の卒業論文も担当させていただきます。



私は保健体育の教員を目指して大学へ進学しました。学部在学中の2013年にオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定したことを機に、選手として出場を目指すのではなく、支える（サポート）側として関わりたいという思いから大学院に進学して学位（スポーツ医学）を取得しました。

学位取得後は、日本体育大学のハイパフォーマンスセンター（在学生・OBOGを対象に科学的サポートを行う部署）に助教として教育・研究に携わってまいりました。そして、開催時期が延長された2021年の東京オリンピック・パラリンピックには、国立スポーツ科学センターの契約研究員として選手のサポートに携わりました。夏季と冬季のオリンピック・パラリンピックが同時に行われるという稀有な年度でしたが、様々な競技団体に関わることができたことは非常に貴重な経験でした。

私の研究の専門分野は、運動生理学・スポーツ医学という分野です。卒業論文から博士論文まで一貫して、“唾液試料を用いた内科的コンディショニング”をテーマに研究に取り組んできました。これまでは、アスリートを主な研究対象としてきましたが、今後は国民の健康の維持増進にも貢献できるように取り組んでまいります。私は、“農学”と“健康科学”は非常に相性の良い分野同士であると考えております。例えば、スポーツ選手を対象とした熱中症対策は農業従事者の方にも十分に応用可能であります。このように、健康科学研究室としては農学と健康科学を融合した研究を展開していきます。

さて、コロナの影響が色濃く残っている現状ではございますが、スポーツ・レクリエーションでは、対面型と録画配信型を組み合わせたハイブリッド型の新たな形で授業を展開しております。教育者・研究者としてまだまだ至らない点多々ある私ではございますが、開発学科の先生方にご指導いただけることを吸収しながら、自己を磨くことを常に忘れずに、東京農業大学はもちろんのこと、国際農業開発学科の発展のために教育・研究に精一杯取り組んでまいります。拓友会の皆様にもお世話になりますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。